

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2018年11月1日 182号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護

第18回国際協力青年奉仕隊・美しい公園を完成



みんなの力を合わせてトロパンパ村に完成したアイワ公園 (Jardin Aiwa) 2018年9月3日

トロパンパ村に、夢を育む公園が完成！

第十八回国際協力青年奉仕隊は、去る八月二十五日に日本国内の集合地でオリエンテーションを受け、翌二十六日に成田空港を発ちました。一行は、男子八名と女子七名からなる十五名の若者たち。もう一名の男子が参加する予定だったのですが、出発直前に事故で負傷したため、完全な治癒を待ち、十月下旬より中期ボランティアとしてレダに赴きました。

パラグアイに到着した奉仕隊はまず、メノー教徒移民が内陸の不毛地帯に建設した町、ロマ・プラータを訪れました。苦難の連続でも希望を見失わずに奮闘した先駆者たちの開拓史を学び、彼らが実現した清潔で豊かな町や工場を見学しました。そして翌日、四駆車五台を連ねて、凄まじい砂塵の立つ道を約六時間走り、トロパンパ村に入りました。五年前、第十三回奉仕隊が学校舎の修繕に汗を流した、人口千人ほどの貧しい村です。

今回の奉仕隊プロジェクトのメイン活動は、村の空き地に公園を完成すること。子どもたちが楽しく安心して遊べる公園を持つことは、トロパンパの住民たちの長年の夢であり、今年私たちに実現への協力を依頼してきたものです。村には、すべり台のような遊具類は一切なく、中央政府から顧みられることもない辺鄙な片田舎。この学校を、州で最も施設の充実した学校にしてあげたいという思いから、このプロジェクトが始まりました。

現地とアスンシオンとレダ等を駆け回り、今回すべての事前調査と準備を担った佐野道准氏は言います。「常に少し危険の伴うブランコはやめて、すべり台、シーソー、階段を昇って集える子供の家、小さな子供たちも乗れる小型のメリーゴーランドのようなものなどを選びました。これらが設置されれば子どもたちが喜ぶだろうと思うと、とても勇気づけられました。そして日本の青年たちがこれに色を着け、壁に絵を描き、美しい花の咲く木を植えれば、夢多き立派な公園になると確信しました。」

レダで中期ボランティアとして活動していた四名の先輩ボランティアも現地にて奉仕隊に加わりました。また、教師、父母、子どもたちなど、小さな村は総出で、日本の青年たちとともに汗を流しました。遊具設置の準備段階では天候が不順で、道路が閉鎖されて動けず、数日間ははらすることはありましたが、その後は順調に進行し、すべてのプログラムを、素晴らしい果たし終えることができました。その経過については、本紙先月号と今号の写真とキャプションをご覧ください。

幸い本年も、奉仕隊は怪我人や病人を一切出すことなく、九月十四日、元氣よく成田空港に帰って来ました。改めて、支援をお寄せくださったすべての皆様に深く感謝いたします。

第18回国際協力青年奉仕隊レポート（後編）



エスペランサの創立記念日祝典に参加。



ダイナミックさでは随一の奉仕隊員たち。

を祝う行事が盛大に行われていました。私たちも村人たちの前で、元気いっぱいダンスを披露し、その後、村内を見せていただきました。午後はレダに帰って、セミナーハウスの前庭に記念の植樹をしました。一人一人が小さな苗



過去の多くの奉仕隊員たちも通った、歓迎の門。

創立34周年の創立記念日だそうで、レダとも心情的な絆の強い村です。この日は村の創立記念日を祝う行事が盛大に行われていました。私たちも村人たちの前で、元気いっぱいダンスを披露し、その後、村内を見せていただきました。午後はレダに帰って、セミナーハウスの前庭に記念の植樹をしました。一人一人が小さな苗

【9月7日】午前中、ボートに乗って、レダから30kmほど北方、パラグアイ川上流にある先住民の村、エスペランサに行きました。これまで



アスンシオンの教会の交流会でも明るく踊る。

【9月8日】ゆったりと流れるパラグアイ川の船旅を楽しみ、午前十時前、セメント生産の白い煙のたなびく町、バジェミに到着しました。港から長距離路線バスに乗り、午後七時頃に首都アスンシオンのバスターミナルに到着しました。その後アスンシオンの家庭教会に移動し、休みました。

【9月8日】ゆったりと流れるパラグアイ川の船旅を楽しみ、午前十時前、セメント生産の白い煙のたなびく町、バジェミに到着しました。港から長距離路線バスに乗り、午後七時頃に首都アスンシオンのバスターミナルに到着しました。その後アスンシオンの家庭教会に移動し、休みました。

木を植えて、白い標識に自分の名前と日付けを書き、その裏には決意を書いて、植えた木の前に立てました。これで奉仕隊のレダにおける全てのプログラムが終了です。午後五時前、港に着いた定期貨客船アキダバンに乗り、岸でいつまでも手を振る先生方に見送られながら、レダを去りました。



記念植樹に各自の名標を立てる。



奉仕隊の乗る船がレダにやって来た。



オオハシの嘴には触れないこと。



蝶寄せのオレンジとパパイアなど。

ちと共に、みんな楽しげに写真を撮っていました。



鳥の公園にて、コンゴウインコたちとともに。鳥の公園では至近距離で様々な鳥を見ることができました。南米の鳥が主ですが、世界中の珍しい鳥に加えて、爬虫類や蝶なども少しいました。私たちは随分と人馴れしているようにも見えましたが、指を突かれた人も何人かいたようです。そんな鳥たちと共に、みんな楽しげに写真を撮っていました。

グアイの青年たちとサッカーをして、汗を流しました。このために先生方が近くのサッカー場を借りてくださり、みんな思い切り楽しめました。シャワーを浴びてから夕食を取り、深夜出発の夜行バスに乗って、翌日の観光のため、ブラジルに向かいました。

【9月10日】ブラジルとの国境の町、シウダ・デル・エステからブラジルの町フォス・ド・イグアスに移動。ここから市内バスで鳥の公園に行きました。この日は平日でしたが、世界各地からの観光客で大賑わい。

楽しさを増してくれました。午後は再びバスを乗り継ぎ、深夜のアスンシオンに戻って来ました。

【9月11日】青年奉仕隊として最後の活動日を迎えました。この日の午前中は、パラグアイで最も発行部数が多いという、ABC（アーベセー）新聞社



美しくも豪壮な、世界自然遺産を体感した青年たち。



イグアスの滝、ブラジル側の遊歩道橋。水煙が濃い。

（9月10日）鳥の公園に隣接する、世界自然遺産イグアスの滝は、創造していった以上に雄大でした。落ちる水の勢いは激しく、滝から少し離れた場所でも水しぶきが濃い霧となつて、みな全身を濡らすほど。「悪魔のど笛」と呼ばれる恐ろしく豪快な滝壺を覗くと、きれいな虹が出ていたのも印象的でした。太陽の輝く晴天日でしたが、滝の付近ではむしろ涼しく感じられるほどでした。巨大な自然の力を目で見て、轟音を耳で聞き、その振動と水煙を体感する、貴重な経験となりました。

の遺産を大切にしている国だと思いました。最後の夕食は和食レストランに行き、美味しくいただきましたが、一人一人がこれまでに感じた



国を護って亡くなった英霊を祀る霊廟に参拝。



ABC新聞社にてインタビューを受ける。

を表敬訪問しました。トロパンプでの奉仕活動を記事にしてくれるそうで、私たち奉仕隊を代表して、男女各一名が記者の質問を受けました。暗いニュースが多い世の中で、新聞記者たちは明るいニュースを探し出し、書きたがるようです。記事は同紙9月19日号に掲載されました。

その後、アスンシオンの中心部に行き、インディヘナのおじさん・おばさんたちが路上で営む露店や、お店のような民芸品店などをとつくりと見て回り、各自がお土産を買う時間を持ちました。途中、戦争で亡くなった人々を祀るパンテオン霊廟に行き、お参りさせていただきました。また、パラグアイで何十年も活動されている伊藤さんという日系移民の方と出会い、昼食を共にしながらお話を聴かせていただきました。さらに鉄道博物館や、旧国会議事堂などを訪れ、先人たちがよく分り



アスンシオン空港。最後の瞬間まで心を尽くし合う仲間。

【9月14日】途中で日付が二度変わる、長い空の旅を終え、元気に到着しました。始めから最後まで、道中を無事で守ってくださいました神様、レダの皆様、トロパンプの皆様、篤いご支援を送ってくださいました皆様、心から感謝いたします。

ことを言葉にして共有し合い、日本に帰ってからどう歩んでいくかを真剣に考えるひと時となりました。

【9月12日】今日はいよいよ日本に旅立つ日。この期間、休む間を惜しんで奉仕隊プロジェクトのために全力投球してくださった佐野先生、中井先生、岩澤先生たちは、私たちの姿が見えなくなるまで見送ってくださいました。各人それぞれ、言い尽くせない思いを胸に抱きつつ、アスンシオン国際空港を飛び立ち、經由地のサンパウロに向かいました。



街の中央広場でショッピングタイム。



鉄道博物館で、古い食堂車に乗る。

第十八回 一日特別研修会のご案内

本年最後のパンタナール一日特別研修会（ワンデイエセミナー）を開催します。会場は、先回と同じセンター棟です。本紙先月号で四〇二室とお伝えしましたが、四〇一室に訂正致します。

日時…十二月一日（土） 十時受付、五時終了予定

会場…国立オリピック記念青少年総合センター、センター棟四階四〇一室（小田急線参宮橋駅徒歩七分または渋谷駅西口40番乗場バス代々木五丁目下車）

参加費…二〇〇〇円（昼食を含む） 当日受付にて

参加を希望される方は、ファックスまたはメールで、下記の当法人事務局宛てお申し込みください。（応募用紙の請求も同事務局へ）

共催…一般社団法人 南北米福地開発協会、NPO法人 地球の緑を守る会

プログラム（予定）

●「レバランド・ムーンの思想とレダ開発」講師…柴沼邦彦 当法人理事

●「レダと日本における植樹活動」講師…高津啓洋 NPO法人地球の緑を守る会代表理事

●レポーター…レダ基地で活動し、最近帰国した人

「環境変動と生物多様性」

陽捷行博士の講義第三弾



九月二十二日（土）午後一時半より、川崎市の高津市民館第六会議室において、第23回環境問題研究会セミナーを、当法人とNPO法人地球の緑を守る会が共催しました。講師は、土壌学・環境科学の専門家の陽捷行（みなみかつゆき）先生。テーマは「環境変動と生物多様性」で、35名が参加しました。陽先生が本セミナーで講師を務められるのは、今回が三度目。前2回の講義で啓発された参加者たちからの熱い要望で、三度目の講義が実現しました。

講義は高度の内容が極力解りやすくなるよう、平易なことを選び、図表や画像を多用したパワーポイントによってなされました。また随所にユーモアを折り込み、最初から最後まで楽しい雰囲気の中で、

時間の経つのを惜しみつつ進行しました。

講義項目…「生物多様性」環境問題の動向を背景に①農業と温暖化の視点から「われわれは土・水・大気・オゾン層・生物によって生かされている」「土壌圏を中心とした圏の構成」「大気圏・水圏・地殻圏・生物圏・人間圏＋人智圏」「土壌圏と水圏が支える地球環境と生物多様性」



③知的科学革命から「地動説を唱えたコペルニクス・ダーウィンの確立した進化論・フロイトの精神分析学」「知的四大革命か？」など。（小田記）



語る陽捷行先生。9月22日



質疑応答では質問者のすぐ前に。

一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行（旧一般会員会費納入）

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

E-メール: office@asd-nsa.com

ホームページ: <https://asd-nsa.com>

Facebook: <https://www.facebook.com/ledaproject.jp/>

会員種別

◆会員一口1000円/月

◆特別会員一口1万円/月

◆法人会員一口1万円/月

※いずれも口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行

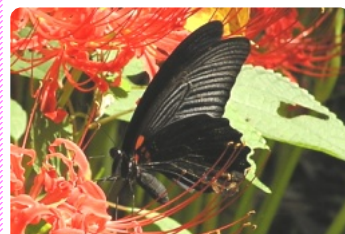
00290-5-113072

加入者名: シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。ホームページからも入手できます。

お便り募集



ナガサキアゲハ（埼玉県）

読者の皆様からのお便りを募集します。本紙記事への感想や提案、皆様個人やご家庭での歩み、あるいはグループや支部での活動と関連写真、イラストなどをお待ちしています。宛て先は、事務局: office@asd-nsa.com へお願いします。